

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第4巻第43号

第43週(10月18日～10月24日)

発行年月日:平成16年(2004年)10月29日

発行:滋賀県立衛生環境センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1) 全数報告の感染症(1類～5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (43週)	累積報告数		平成15年報告数	
			滋賀 (43週)	全国 (43週)	滋賀	全国 ^(*)
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	9	500	7	459
	腸チフス	1	2	59	0	60
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	20	3304	8	2635
4類感染症	E型肝炎 ^(*)	0	1	24		
	オウム病	0	1	37	1	44
	ツツガムシ病	0	0	106	2	380
	デング熱	0	2	40	0	31
	マラリア	0	1	61	0	77
	レジオネラ症	0	0	118	1	143
5類感染症	アメーバ赤痢	0	7	479	3	504
	ウイルス性肝炎	0	2	242	3	634
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	136	3	115
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	48	0	52
	後天性免疫不全症候群	0	5	930	8	949
	ジアルジア症	0	1	70	0	99
	梅毒	0	3	414	2	493
	破傷風	0	2	82	1	69
	急性脳炎	0	0	56	0	98

*1:平成15年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2: " 感染症法の改正前のためE型肝炎のみの集計はされていません。

2) 定点把握の対象となる5類感染症

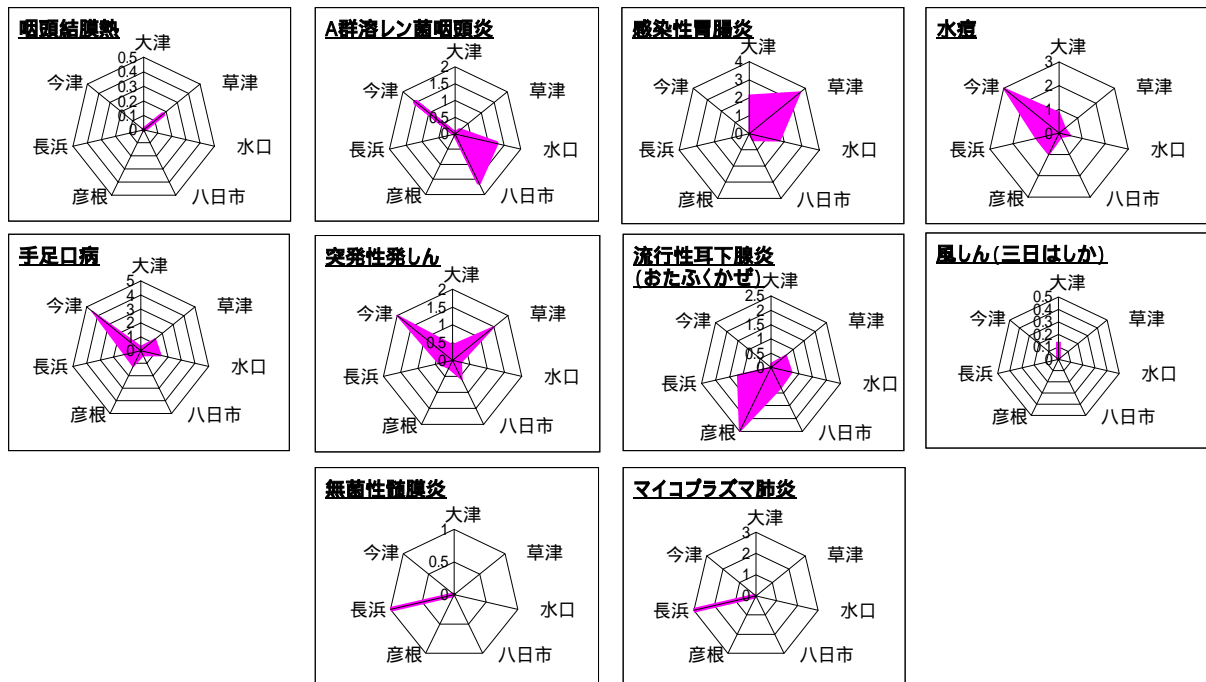
(1) 疾病別・週別発生状況(第38～43週、9/13～10/24)

疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	38週		39週		40週		41週		42週		43週	
	(9/13～)	(9/20～)	(9/27～)	(10/4～)	(10/11～)	(10/18～)	39	40	41	42	43	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0						
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	0.36	0.36	0.36	0.58	0.36	0.03						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.03	0.15	0.18	0.21	0.15	0.52						
感染性胃腸炎	1.18	1.27	1.79	1.88	1.70	1.39						
水痘	0.42	0.42	0.45	0.70	0.52	0.79						
手足口病	0.48	0.58	0.67	0.82	0.73	1.15						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.09	0	0.06	0.09	0.06	0						
突発性発しん	0.67	0.73	0.76	0.97	0.70	0.70						
百日咳	0	0	0	0	0	0						
風しん(三日はしか)	0	0.03	0	0	0.06	0.03						
ヘルパンギーナ	0.24	0.18	0.27	0.06	0.09	0						
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0.03	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.82	0.88	0.97	0.58	0.76	0.85						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.14	0.14	0	0.14	0	0						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0.43	0	0.29	0	0.14	0.14						
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0.29	0.29	0.43						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第43週、10/18～10/24)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0.03	0	0.17	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.52	0	0.17	1.25	1.60	0	0	1.50
感染性胃腸炎	1.39	2.14	3.67	1.75	0.40	0	0	0
水痘	0.79	0.86	0.33	0.50	0.20	1.00	1.00	3.00
手足口病	1.15	0.29	1.33	1.50	0.40	1.25	1.20	4.50
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発しん	0.70	0.43	1.50	0.25	0.60	0.25	0.40	2.00
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0
風しん(三日はしか)	0.03	0.14	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.85	0.14	0.67	0.75	0.80	2.50	1.20	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0.14	0	0	0	0	0	1.00	0
マイコプラズマ肺炎	0.43	0	0	0	0	0	3.00	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況:

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。大津から毎週報告されていた咽頭結膜熱は今週は報告されていません。A群溶菌菌咽頭炎は水口、八日市、今津で多くなっており、流行性耳下腺炎は先週に引き続き彦根、長浜で多くなっています。

また、今津保健所管内における発生状況についてみると、A群溶菌菌咽頭炎、水痘、手足口病および突発性発しんの発生が多くなっています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といいます。

* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

3)今週のトピックス

手足口病の発生は今津保健所管内で急増 劇症型溶血性レンサ球菌感染症について

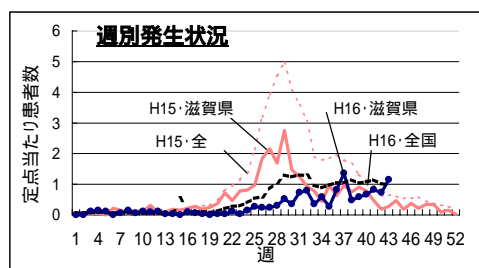
定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(10月11日～10月17日)の報告数よりやや多くなっています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、流行性耳下腺炎等は増加していますが咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ等は減少しています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフを参照)。

また、大津保健所管内からは風しん(三日はしか)の発生が報告されています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、先週(10/11～10/17)の定点当たり患者数 0.15より増加し今週は0.52となっています。草津、水口、八日市および今津保健所管内から報告があり定点当たり患者数はそれぞれ、0.17、1.25、1.60、1.50となっています。

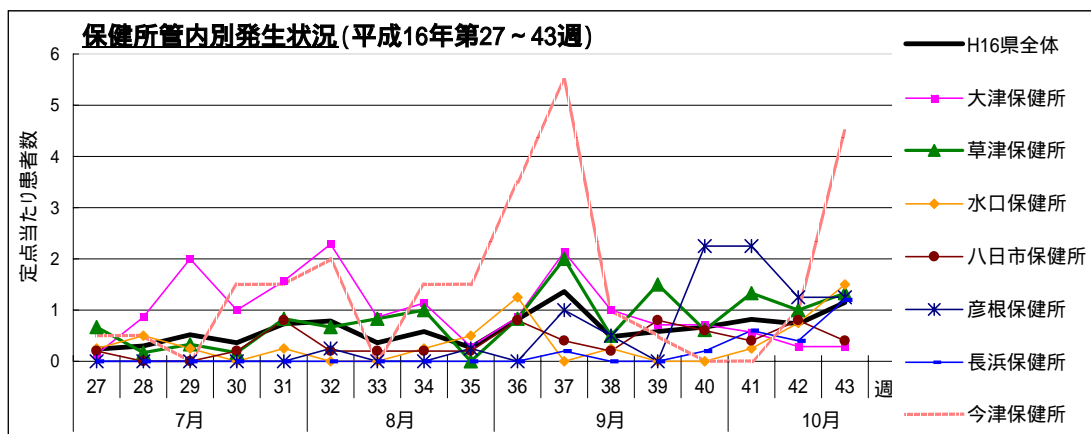
手足口病については、定点当たり患者数は先週 0.73より増加し1.15となっています。草津、水口、長浜および今津保健所管内において増加しており、特に**今津保健所**管内で急増しています。

手足口病の発生状況



手足口病の発生状況を昨年と比較してみると、昨年は第26～31週(6/23～8/3)に多く発生しており過去数年間と同様の発生状況となっています。今年は、第29週(7/12～7/18)以降増加を示していますが例年のような明確な発生のピークはみられません。また、増加を示す時期については昨年より遅くなっています。

平成16年第27～43週の発生状況についてみると、今津保健所管内における定点当たり患者数が多くなっています。特に、第37週および第43週には急増し定点当たり患者数はそれぞれ、5.50、4.50となっています。



劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症はA群溶血性レンサ球菌に感染し突発的に発症することが多く、急速に多臓器不全に進行しショック状態となり死に至るきわめて致死率の高い感染症です。「人食いバクテリア」といった病名で呼ばれることもあります。

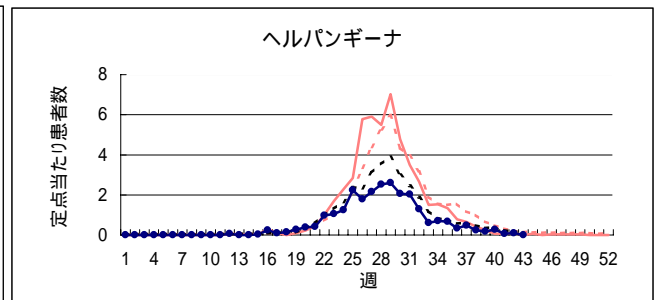
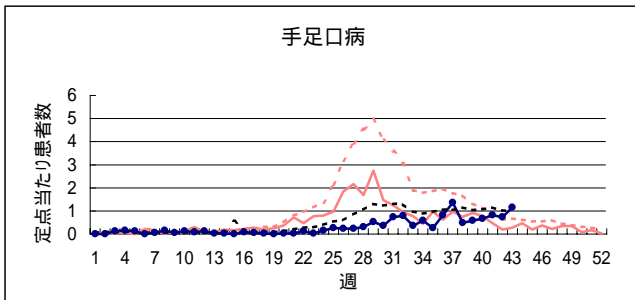
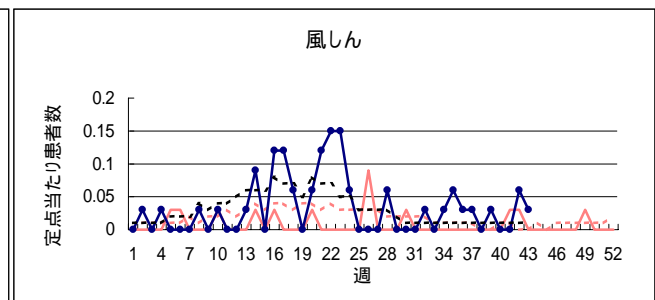
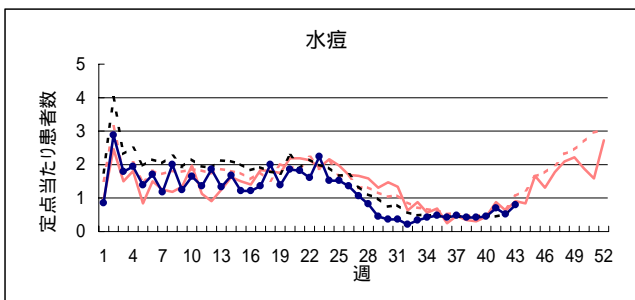
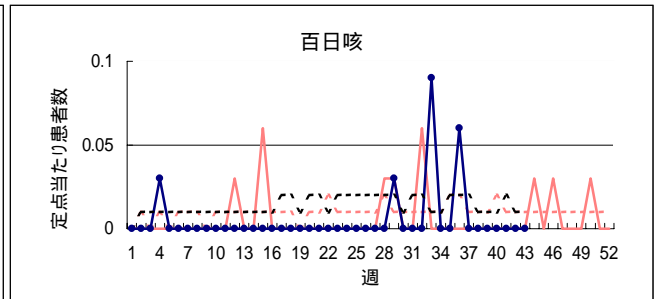
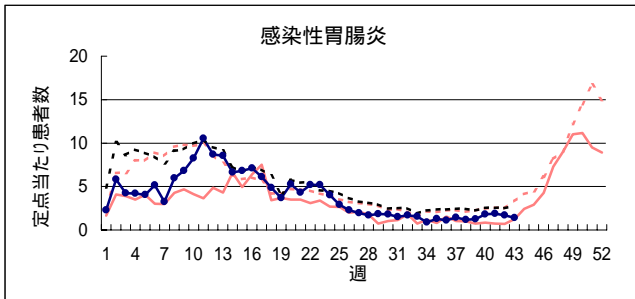
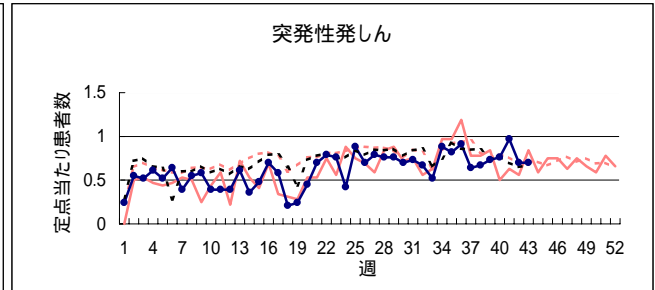
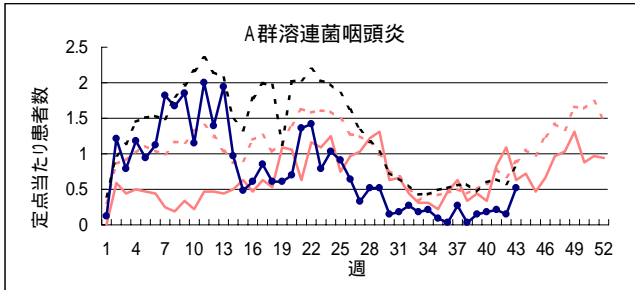
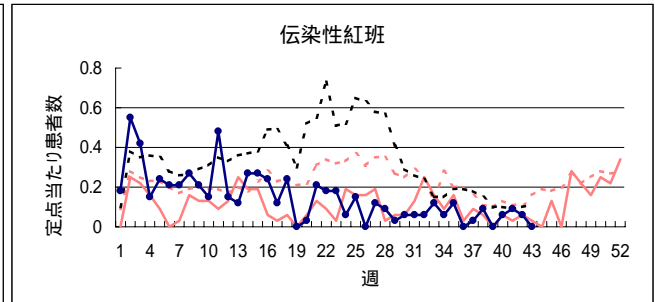
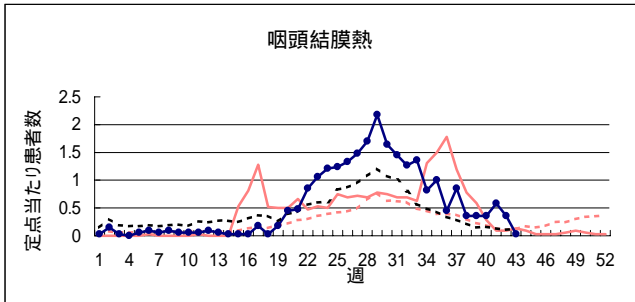
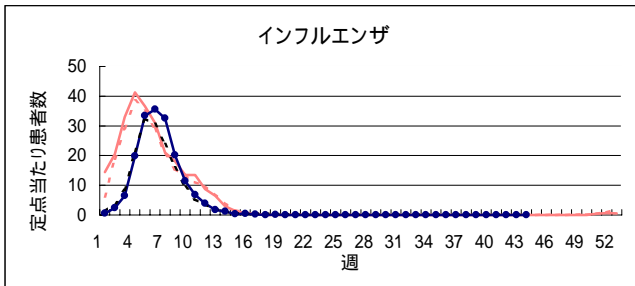
1987年に米国で最初に報告され、その後、ヨーロッパやアジアからも報告されており、日本における最初の典型的な症例は1992年に報告されています。感染症発生動向調査における報告によると、平成16年第43週現在で48件となっています。滋賀県においては、平成14年に1件、平成16年に1件報告されています。

A群溶血性レンサ球菌の感染による一般的な疾患は咽頭炎であり、その多くは小児に発生しています。また、劇症型溶血性レンサ球菌感染症は子供から大人まで広範囲の年齢層に発生しますが、特に30歳以上の大人に多く発生するのが特徴です。

感染後の初期症状としては四肢の疼痛、腫脹、発熱、血圧低下などですが、症状の進行が非常に急激かつ劇的で発病後数十時間以内には、軟部組織壊死、急性腎不全、成人型呼吸窮迫症候群(ARDS)、播種性血管内凝固症候群(DIC)、多臓器不全(MOF)を引き起こしショック状態となり死に至ることがあります。

治療としては抗菌薬(ペニシリン系)の投与、血圧維持のための輸液、壊死に陥った軟部組織の切除等が必要とされています。

疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第43週、H15.12.29～H16.10.24)



疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第43週、H15.12.29～H16.10.24)

H15 〔 滋賀 ———— 全国 〕
 H16 〔 滋賀 —●—●— 全国 〕

